

ひまわりからの メッセージ

155号

2024. 11. 11.

NPO ひまわりの花内
西濃園域
発達障がい支援センター

発行人：中野たみ子

冬の薔薇



立冬になり、朝の散歩にもジャンパーを着ないと寒いなあと感じるようになりました。

近くのお宅には、垣根よりも背丈が伸びて紅いつぼみをつけた薔薇があります。あの固いつぼみは、冬の寒さの中で咲くのだろうかと思いついて歩いていると、雀たちのにぎやかなさえずりが聞こえます。見ると葉が落ちて裸木になった低い木に雀たちが群がって囀っているのです。雀って絶滅危惧種になるのでは……という記事がふと頭をよぎりました。

ところで私は、センターの仕事を始めてから、胸にフローチをつけることが多くなりました。昔はTシャツやトレーナーとジャージ姿で子ども達と走り回っていましたからフローチとは無縁でした。最近では動物や花、鳥などのフローチをつけて初対面の子とも達とのきっかけ作りにならないかという思いも

あるのです。

この日は、バラの花に出会ったこともあり、何となくバラのフローチをつけて訪問先の小学校に向かいました。その学校で授業に出られない女児に出会いました。彼女は「バラ……」とつぶやきました。「そう、バラね」と応えて少し話しかけると、国語が嫌で図工が好きとのことだったので「じゃあ、絵を描いてみてう……」と無責任なことばを残して私は他の学級の参観に出かけたのでした。しばらくして参観を終えて戻ると、彼女はタブレットを見て、コスモスの絵を見事に書き終えていました。「すてきだね」と声をかける私には答えずタブレットを操作しバラを探し始めたのです。中に一輪青いバラがあるのを見つけたので「青いバラって余り見たことないよね」と話しかけても彼女は無言で線書きを始めました。私は時間がなかったので「今度来た時に見せてね」と言うと、突然大きい声で「今、書く」と言うので、それでしばらく待つと青いバラの絵が仕上がりました。彼女はバラのフローチをしている初対面の私にプレゼントしようとして、頑張っ

て描いてくれたのでした。
この日一日、私はとても幸せな思いで、次の訪問先でも「見てー」とまるで自分が描いたかのように自慢して見せてきました。Rさん、とても素敵な絵をありがとう。ラミネートして大事にします。バラのフローチが紡いでくれた関わりに感謝し、国語も好きになれるといいなあ……と青いバラの絵にそんな願いも托したのでした。

徒然なるままに……

「つれづれなるままにひぐらし硯に向かいて……」で始まる吉田兼好の「徒然草」ですが、今回は年齢を重ねたせいか世の変化が少し気になって「由無し言」を少し書いてみようと思います。おつき合下さい。



活字離れ?!

私は心理師でもあるので、あちこちの小・中学校の依頼を受けて出かけています。主にWISC(対象年令五〜十六歳)やWPPSI(対象年令二歳六か月〜七歳三か月)などウェクスラー検査が多いです。私が一年間に行う検査数は毎年二〇〇名を越しますが、検査後私は子ども達に「新聞とつづいて」と聞くことにしています。驚いたことに九割の子

が「とつづかないよ、じいちゃん(ばあちゃん)はあるけど……」と言います。これは、びっくりです。検査依頼は、保護者や担任の先生たちが「この子、ちょっと心配」とか何らかの困りに気づかれて受検をすすめられるのですから、日本の九割が……ということではありません。ですが、受検する九割もの子が日常的に活字文化に触れていないということになります。ニュースなどはテレビやスマホなどから情報を得ているご家庭なのでしょう。

合理的配慮と交流について

このことと子どもたちの困りが直結しているとは言えませんが検査をする子どもたちの多くが言語的推理といって、ことばからイメージを広げていく力が弱いことを考えると、家庭における文化の違いもあるのではないかと考えたりしてしまいます。世の中はますますペーパーレスになり、人とのコミュニケーションはLINEやSNSで短文ですませられる時代になっていくので、うが、活字離れは、今後どんなメリット、デメリットを生んでいくのかなあ……と考えたりしています。



十一月に入り、どこの市町でも教育支援委員会が終わり、保護者の方たちに入級の勧めなどが配られる時期になり、保護者の方の決断が求められています。自分の子がどこで、どんな学びをすると良いのか、悩み迷っておられる保護者の方も多いのではないだろうか。教育相談も続いています。保護者相談を受ける中で気になることが二点ありました。

◎支援学級と交流について

「支援学級に入ったら、通常学級の子とは関わりたくないのではなか？」とたずねられて、「いえ、交流というのがあって……」と応えるのですが、驚いたことに「うちの学校では〇〇と△△としか交流には行けません」と、堂々とおっしゃる学校があり

ます。えっ？、合理的配慮やインクルーシブが叫ばれている今ですけど？、

二十年前も前のことです。まだ合理的配慮などということばさえ聞かれなかった時代に、絶対音感をもつ児がいて、音楽の授業を苦痛に感じていました。しかし、数学的な力はもっていて皆の学力と遜色はありませんでした。当時は交流に行ける教科は決められていましたが、彼の交流は彼の特性に合わせて考えられたのでした。

合理的配慮というのは、もちろん出来ることと出来ないことがあります。しかし、あくまでも生徒主体で考えてということが最優先であって、学校の都合で決めていくものではないでしょう。保護者の方も学校も相方が話し合い、子ども主体で考えていってほしいものです。

◎ 放課後デイサービスについて

放課後デイサービスのガイドラインには「障害児であって……と書かれています。『学業不振だから……』とか『通常学級で心配だから……』と放課後デイサービスを勧められる先生方や『うちの子は支援学級対象じゃない』と言いつつ、放課後デイサービスを使おうとされる保護者がいらっしゃいます。障害のある子ども達のためにある制度ですから、費用の九割は税金でまかなわれています。制度をきちんと知った上で必要な子ども達に必

基本の大切さ ～大垣工業高校を見学して～

要なだけ使わせてあげてほしいのです。事業者側から保護者に対して「もっと回数を増やしてもらおうように要求して下さい」と言うことは禁じられています。そういう事業所は用心するにこしたことはありません。誠実な事業所はたくさんありますから自分の子にとって将来の自立に向けた療育をしてくれる所を選ぶようにしてほしいと思います。



先日、大垣工業高校の文化祭に行ってきた。そして、その二、三日後には、実際の授業場面を見学させていただく機会があった。私は普通科出身ですから物づくりのことは全くの無知です。見るもの聞くもの全てが驚きでした。

文化祭では、特別支援学校とのコラボで、車椅子の車輪を洗えるように溝を作ったものや生徒が学習に使うポスターの製作も見ました。見学者が体験できるアロマろうそくや糸ハンカの接着体験の場もありましたが、私は見学に終始しました。生徒さんたちの会話から糸ハンカ付けや旋盤にも等級があることを知り、技能の大会で生徒さん達が頑張っていることを知って、世の中のことを余りにも知らなすぎる自分に気づかされました。

発達について 学ぶことがたくさんある。

た。
授業参観では、一年生は、やはり基礎を学びます。旋盤では、手を使って機械の微妙な角度を調整していきます。生徒さん達は皆、真剣に取り組んでいました。実は、この基礎学習が次のステップのコンピューターを使うの製図や機械操作へとつながっていくのだとこのことをした。
どんなことでもそうですが、まず基本をしっかりと学ぶということが重要だということでしょう。
工業高校では、会う生徒、会う生徒が、大きい声で挨拶をしてくれます。就労していく生徒ばかりではなく、大学進学を目指す生徒もいるそうですが、どの道に進むにしろ、挨拶がきちんと出来ることは、大切なことですね。

現在、学校で支援が必要な児童生徒は、ハ・ハ%
だそう。子ども家庭庁ができ、専門家が子どもたちの発達について議論を重ねられているはずですが、何故乳幼児期からの発達の見直しをしないのでしょうか。不思議でなりません。
子どもの発達は、就学から始まるわけではありませ
ん。その前の乳幼児期、いえ、母胎に宿った時から
子どもの発達は始まっているのです。
核家族化が進み、子どもの遊びの変化や生活の

変化、地域社会の変化は否応無く子どもに影響を及ぼして
います。就学年令を迎えるも、まだ幼児期の発達の段階
の子もいると思います。学校の先生方は乳幼児期の子どもの
発達に関しては、おそらく未知の世界なのではないですか。
そして保育の先生方は、就学後の子ども達の成長・発達
をご存知ないのだろうと思うのです。それは当然のことです
が私たちに必要なことは、人間の誕生からの発達の過程を
知った上で、今、自分はその中のどこの部分にかかわっているのか
を理解することではないかと思うのです。かく言う私も、まだ
十分に分かっていないのですが概略だけでも知っていたいですね。
発達障害の子どもたちの特性理解を……と言われます
が、私は子どもの発達理解が大切だと思っております。そうす
れば、子どもたちが示す行動が、実はまだ〇〇の段階の行
動の表れ方かもしれないということも考えられるわけであ
る……。

まだまだ学ぶことがあり過ぎます。困ったことです。

お知らせ

12/9 (月)
センター親の会

12/18 (水)
ピアサポート

＜成人相談＞

12/9 揖斐川
12/10 養老
12/13 輪之内
12/17 神戸

